科目分類	医療のコラボレーション教育			開講学科	看護学科
科目番号	学年	配当セメスター	区分	単位数	授業時間数
18041	1	後期	必修	2	30
授業科目名 (英文)	臨床薬理学（薬理学） (Clinical Pharmacology)				
担当教員名	本多 秀雄				

授業の概要及び到達目標

概要：代表的な疾患を概説し、それらに対する治療薬ならびに予防薬の作用（薬効、作用機構、副作用など）について学習する。
到達目標：代表的な薬物の作用、動態、作用機構、医療用途および主な副作用に関する知識を基盤として医薬品の作用する課程を説明できる。

準　備　学　習　等

薬の薬効､作用機序および副作用を正しく理解するためには基本的な人体の解剖学および生理学に関する知識が必要となります｡本授業では基本的な人体の解剖学および生理学についても講義を行う予定ですが、講義前にこれらを各自が調べておくと講義がより良く理解できると思います。
使用テキストの各章の最後にゼミナール（問題）があります。解答はテキスト中に記載されていませんが、各自が講義、テキストおよび参考図書を参考にして行ってください。
具体的には授業計画にその日の講義で行う項目が記載されていますので､講義前にはゼミナール（問題）を熟読して下さい。講義後には各自がゼミナール（問題）を解いてください。
なお､実際に薬害に遭われた被害者の方に「薬害の被害状況及び薬害被害者の立場から看護師に求めること」と題する講演を行って頂く予定です。

成績評価の方法	期末試験の結果（原則として 60 点以上で合格）の他、出席も加味して評価します。
テキスト	大鹿英世・吉岡充弘・井関健　著：系統看護学講座　専門基礎分野、薬理学、疾病のなりたちと回復の促進[3]、医学書院、2016
参考図書	日本臨床薬学会編：臨床薬理学、医学書院、2011 田中千賀子、加藤隆一編：New 薬理学、南山堂、2011
備　　考	薬の薬効、作用機構および副作用などをより良く理解するには「身体の仕組みと働き」を十分理解する必要があります。 各授業終了後教室で質問を受け付けます。

授　業　計　画
1. 総論１：薬理学の概念、薬物の作用とその発現機構 2. 総論２：薬物の吸収、分布、代謝、排泄、薬物相互作用、薬害、薬の管理、新薬の開発 3. 抗感染症薬：抗生物質、抗ウイルス薬、抗真菌薬」 4. 抗がん薬：アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗生物質、植物アルカロイド、性ホルモン、 5. 免疫治療薬、抗アレルギー薬、抗炎症薬 6. 末梢神経作用薬１：自律神経系作用薬 7. 末梢神経作用薬２：筋弛緩薬、局所麻酔薬 8. 薬害被害者の講演「薬害の被害状況及び薬害被害者の立場から看護師に求めること」 9. 中枢神経作用薬１：全身麻酔薬、催眠薬、抗不安薬、抗精神病薬 10. 中枢神経作用薬２：抗うつ薬、パーキンソン症候群治療薬、抗てんかん薬、麻薬性鎮痛薬 11. 心臓血管系作用薬１：抗高血圧薬、狭心症治療薬、心不全治療薬 12. 心臓血管系作用薬２：抗不整脈薬、利尿薬、抗高脂血症薬、血液作用薬 13. 呼吸器・消化器・生殖器に作用する薬物 14. 物質代謝に作用する薬物：糖尿病治療薬、甲状腺疾患治療薬、治療薬としてのビタミン 15. まとめと期末試験の説明